

コラム 13ー 歴史家・王芸生の三国干渉論

「三国干渉は処置拙劣を極めたため、正に分割の禍を招来させ、しかもその後に於ける世界幾多の悲劇はここに胚胎した。・・(中略)・・かくて李鴻章、露国と密約を結ぶに及んで、満州問題の禍根は植え付けられ、更に列強の激烈な角遂を惹起し、北清事変、日露戦争より欧州大戦に至るまで、すべてこれより一連の線を引く悲劇を作るに至った。そして元来多事を畏れた清国は、却ってこれより世界混乱の中に捲き込まれ、翻弄せられて帰する所を知らない有様に立ち至った」